

女性の家 HELP

ネットワークニュース

No.75

【聖句】

「わたしは主によって喜び楽しみ
わたしの魂はわたしの神にあって喜び躍る。」

(イザヤ書 61 章 10 節)

☎ (03)3368-8855 郵便振替 00110 - 5 - 188775

私たちはどこから来てどこへ行くのか

HELPには今日も様々な事情(次ページ参照)で入所者がやってきて、住んでいます。最近では妊婦さんと高齢者の増加傾向が顕著です。彼女達はHELPでの短い滞在の中で「私はどこから来て、どこへ行くのか」とそれぞれの仕方でも問います。

外国籍の夫との間の4歳の子どもと一緒にAさんは、やってきました。夫からの深刻なDVでした。しかし、彼女はそれをほとんど自覚していませんでした。また、心身共に余裕のない中で、子どもが暴力的になっていることにも気付いていなかったとカウンセラーに話していました。彼女は約1カ月HELPに住み、他の施設に移る時は、ここから先の自分自身のあり方を自分で決められるようになっていました。

Bさんは20代後半。住み込みの仕事を突然解雇されて、居場所を失って入所しました。一日も早くアパートに住みたいと、毎日、一生懸命、就職活動に励みました。しかし、適当な仕事が簡単には見つからず、落ち込む日が続きました。他の宿泊所に移って、もう少し時間をかけて職探しをすることを決意しました。

10歳のCちゃんは外国籍の母と来ました。日本人の父の母への暴力から逃れるためです。2週間ほど経つと母は夫の元に帰ると娘に言い始めました。Cちゃんは、ママ殺されちゃう、と大反対。毎晩遅くまで母娘で話し合いをしていました。約一カ月後、母は夫の元に帰り、Cちゃんは大人も驚くほどはっきり帰らないと主張し、児童養護施設に一人で行きました。

20代前半のDさん。未婚の母として、二人

目の子を出産して退院先がHELPでした。約3週間の生活の中で、上の子が泊りに来てお母さんの顔を見せていました。アパートに帰りたいと希望したので、関係機関が集まってどのようにサポートするかを話し合いました。子どもとの生活をどのように再構築していくかが、大きな課題でした。沢山のサポートを受けて、Dさんは一人でアパートに戻りました。どんなに沢山の機関関係者が知恵を絞り、サポートプログラムを構築しても、それらを実行できるのはDさんだけなのです。

夫やパートナーのDVで入所し、夫やパートナーの元に戻った女性も少なくありません。3人の子どもと一緒に入所した外国籍の女性Eさんは日本人夫のDVで入所。2カ月後、生活保護費の中から帰国費用を積み立て、自治体からも補助していただき自国の実家に4人で帰国。その後、数カ月後に夫の元に帰りました。フェイスブックで繋がり、夫が再来日費用を用立てたのでした。

一人一人それぞれに歩む道や、逃れの道は私たちの思いをはるかに超えて備えられていると学んでいます。HELPもこれからどこに行くのか、大きな時代の変化の中で民間シェルターとしてのあり方が問われています。「法の隙間に居る女性・子どもへの支援はHELPの設立当初から変わらない精神である」と事業報告にあります。ここから来た道は、必ず備えられていると確信しています。

(HELPディレクター 上田博子)



2013年度 HELP 利用者概況 ～外国籍のホームレス化とベビーラッシュ～



2013年度のHELP利用者は、外国籍女性19名、日本国籍女性47名、同伴児14名の合計80名であり、総宿泊数は1876泊（前年度比92.3%）であった。年度前半は、研修プロジェクトを展開しつつ、8月頃から従来のミュージックセラピー、フラワーアレンジメントに加え、ハーブセラピー、アロマセラピーなど心身の状況を整えるプログラムの充実を図った。

DV被害女性の安全確保や外国籍の母語支援のため、HELPスタッフが医療機関へ同行した割合は、全入所者では35%（前年度比123.2%）と増えたが、外国籍入所者では33%（前年度比51.1%）となった。

〈外国籍女性〉

外国籍女性総数19名の約半分が子ども連れで、同伴児は11名であった。子どもの年齢は、半数近くを10歳以上が占めるが、どの年齢層も入所している。2013年度の入所理由で従来と大きく異なったことは、居所無し（30.0%）が大きな割合を占め、入所理由の第2位となったことである。外国籍女性の定住化が進み、女性相談における外国籍の相談内容が日本人と変わらなくなってきたことを反映していると思われる。

入所理由の第1位はDV（46.7%）で、家族からの暴力（16.7%）と合わせると暴力による避難は60%以上に及ぶ。他方、人身売買、妊娠とともに3.3%と低率であった。

外国籍全体の平均滞在日数は23.29日であり、平均値としては、過去5年間で最短となった。しかし、実際は、数日のみの滞在の場合

と、施設の空き待ち等による長期滞在の場合の両極に分かれている。

● DV被害者…2013年度は、母子で避難した後、「暴力のある生活」の捉え方が母子で異なっていることが明らかになった家族が複数見受けられた。母は、暴力を振るう夫の元へ帰ることを希望する一方で、「帰らない」意思を明確に表明する学童（小学生）もおり、HELP退所後に母子別々の道を歩むことになった場合もある。母子関係そのものが悪いわけでないが、社会の中で円滑な人間関係を切り結ぶ技術を持たない母親に対し、その母親のサポートに疲れ果てている子どもから「No」が突きつけられている。

この他、「（私は）外国人だからダメ（助けてもらえない）だとずっと思っていた」女性も複数受け入れた。十分な日本語能力を持つにもかかわらず、地方の自治体で否定的な態度を取られたり、逆に「区役所は皆日本人だから、（日本人の）夫の味方をするに決まっている」と思い込み、相談に至るまで2年近くの間、子ども連れで友人宅を転々としたりしていた。このことは、加害者による外国籍女性への国籍、法的地位に関する脅しの効力が強いこと、被害者支援の枠組の周知が不十分であること等、外国籍女性がふさわしい支援を得る障壁が今なお大きいことを示している。

● 人身売買被害者…2013年度に受け入れた被害者は、滞在期間中、連日の関係機関の聴取に追われた。その傍ら、他の入所中の子どもたちに愛情を注ぐその女性の姿勢は、言葉の壁を越えて万人の信頼を得ていた。事情により、支援の終わりを見届けることはかな

わなかったが、女性の希望通り、早期に帰国が実現するよう願いつつ見送った。

- 居所無し…2013年度に受け入れた女性の中には、長期化したHELP滞在中、次々外出の計画を立て実行したり、定期的なエクササイズをして体力づくりをするなど自主性とバイタリティを発揮する方もいた。また、国際的移動を繰り返す母親の下で、年中通訳をしていたティーンエイジャーもいた。HELP退所後、夜間中学通学で居場所と友人を得た際のティーンエイジャーの「笑顔」を見て、子どもの健全な成長と教育機会に及ぼす影響の大きさを感じた。
- 退所者へのケア…2013年度は、他団体との協力の下、お花見等の季節行事の実施、一流ホテルシェフ指導によるデザートやパンづくりへの参加に加え、新規で東京ディズニーランド招待など楽しいものが続いた。また、退所者の裁判支援、在留資格に関する支援などを継続して行っている。

〈日本国籍女性〉

日本国籍女性は47名、うち子ども連れは3名であった。入所理由は、例年通りホームレスが52.0%と最も多く、次いでDV（夫・恋人からの暴力）が22.0%である。2013年度の特徴は、妊娠（14.0%）が高率を占め、家族からの暴力（12.0%）を上回り第3位となったことである。

平均滞在日数は約24.42日と昨年度に比べ10日近く伸長した。高齢の女性や、2013年度多数受け入れた妊娠女性も、退所後に引っ越し施設の受け入れ事情や、出産後の子どもの養育の有無などにより滞在期間が長期化することが多い。

妊娠女性の中には、一度はシングルマザーになるつもりで自治体に相談したものの、その後胎児の父との結婚話がまとまり、出産後新家庭

を築いた方がいた。HELPの長い歴史の中でも珍しい出来事で、スタッフ一同大喜びした。

他方、出産直前に至るまで、産後の子の養育に関する方針が定まらず、度重なる自治体との調整に苦慮する女性も見られた。出産間近になってもふさわしい施設への引っ越しができない状況が生まれたことは、安全な出産を保障する面からは望ましいこととは思えず、今後改善に向けた努力がなされなければならないと考える。

この他、本来ならば生活保護を受けられる女性が、自治体の厳しい判断により行き場を失う事態もあり、法の適正な運用が求められる。

〈電話相談〉

2013年度の電話相談は、日本を含む28カ国の方から、658に上る相談項目について相談があった。電話相談項目総数が大幅に減少しているのは、主に電話相談にあたるHELPスタッフ総数が減少したことと、昨年度以降タイ語の対応ができない体制であることが明らかになったためと考えられる。

外国籍電話相談のうち、最多を占めるのは例年通りフィリピン人に関連した相談である。しかし、例年半分以上を占めたその割合は、2013年度は4割に留まった。その内容は、DVや離婚、在留資格、職場でのハラスメント等に関する本人からの相談、児童相談所や市役所等からの支援要請などが含まれている。

また、日本人の電話相談では、現行のDV被害者支援を受けぬまま、離婚に至った女性からの相談や、カトリックの教えに理解のある弁護士紹介を求める相談などが含まれ、DV被害者の回復プロセスにおいて、宗教的支えを意識する関わりが求められていると感じる場面もあった。

HELP 国籍別滞在者数

(2013年4月1日～2014年3月31日)

昨年度から年度をまたいで滞在了る者を含む

HELP 国籍別滞在者数

国籍	女性	同伴児
フィリピン	7	4
コロンビア	3	2
台湾	2	3
中国	2	2
ルワンダ	2	0
タイ	1	0
韓国	1	0
マレーシア	1	0
小計	19	11
日本	47	3
合計	66	14

同伴児のいる女性の数

日本国籍	47人中3人
外国籍	19人中9人

外国籍利用者地方別内訳

出身地	人数
東京	14
愛知	2
長野	1
山梨	1
群馬	1
合計	19

利用者退所先

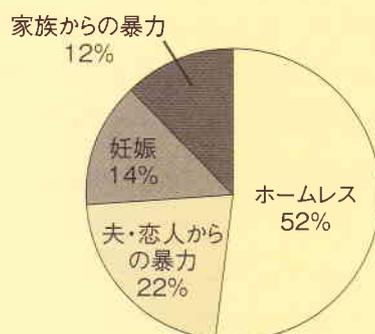
退所先	日本国籍	外国籍
施設	24	8
アパート	4	0
女性センター	2	4
帰国	0	0
帰宅	5	1
友人・知人宅	1	0
路上	0	0
入院	1	0
住み込み就職	0	0
不明	8	3
未定	1	1
その他	1	2
総計	47	19

外国籍利用者平均滞在日数

2009年	37.85日
2010年	31.06日
2011年	28.93日
2012年	25.00日
2013年	23.39日

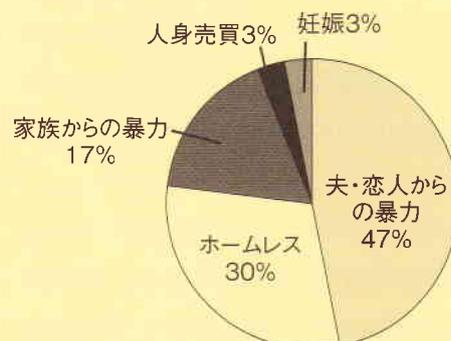
利用内訳【日本国籍】

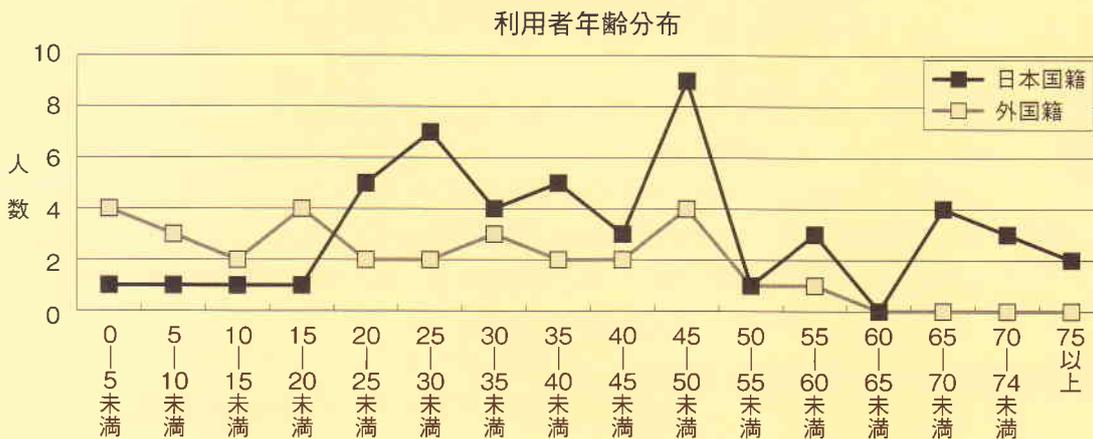
2013年4月1日～2014年3月31日



利用内訳【外国籍】

2013年4月1日～2014年3月31日

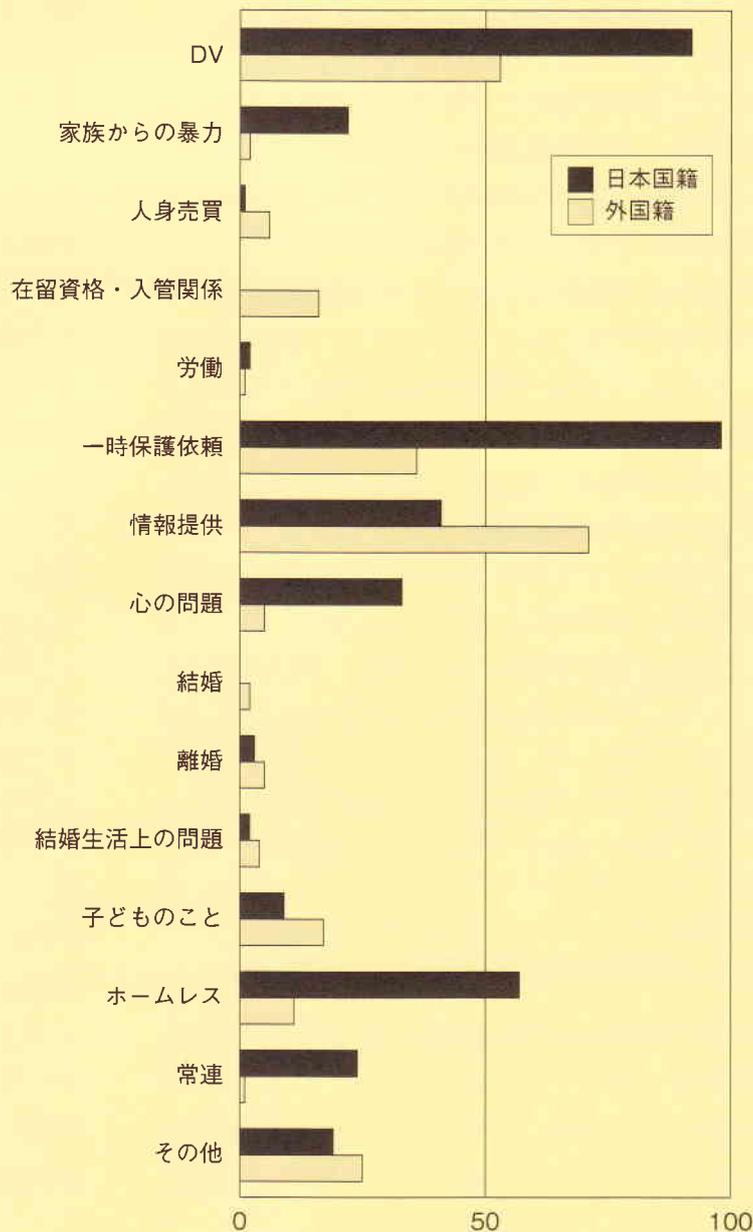




電話相談項目件数 (国籍別)

国籍	件数
日本	403
フィリピン	104
タイ	26
中国	21
コロンビア	9
マレーシア	9
イギリス	7
USA	6
ロシア	6
ペルー	5
ミャンマー (ビルマ)	5
韓国	4
台湾	4
ルワンダ	4
ネパール	3
日本 (帰化者等)	3
ポーランド	2
ボリビア	2
南アフリカ共和国	2
ナイジェリア	2
イラン	2
ハンガリー	2
シンガポール	2
スロバキア共和国	2
カナダ	1
スペイン	1
ベトナム	1
インド	1
不明	19
合計	658

電話相談項目件数 (内容別)





お祝いの季節の装い



人生にはいろいろな節目があり、その時私たちは、特別の装いでそれを祝う。しかし、もしその「大切な時」をシェルターで過ごすことになったら？「お祝い」は素通りされ、あきらめなければならないのだろうか？シェルターで通常行っている「衣類の提供」の延長線上で、「お祝い」を「お祝い」としてともに祝うために、晴れの服の調達に取り組んだ例を紹介する。

“記念写真”…始まる母子生活

「七五三の衣装、この子にと親類から貰ったのがあったんだよね…」とぼつりとつぶやいた母親。娘は七五三の歳である。世間は七五三詣の広告で賑わう頃、電車の中での出来事であった。

もし自分が、娘の七五三を出来なかったとしたら、絶対に悔いが残るだろう。記念の写真だけでも撮りに行くことはできないだろうか。そう思い、母親と相談をして、写真だけでも撮るぞ！と写真館に予約を入れた。どこの写真館も時期的に予約は一杯で、母子の HELP 滞在期間内にと、写真館探しは一苦勞であったことは添えさせていただく。

いよいよ迎えた撮影当日。何とか揃えたスーツ。スタッフに借りた Bag。メイク等、総出で母子と私（スタッフ）を送り出してくれた。HELP スタッフに感謝。

胸膨らませ写真館へ。なんとサービスで母親の衣装、着付けもして貰えることに。娘は初めて見るドレスや着物に目は輝き、母は目を細めていた。因みに私は親戚のおばちゃん状態で撮影に付き添った。娘が可愛らしいのは勿論だが、私にとって母の凛とした姿がとても嬉しかった。母の“覚悟”も写真に切り取られていた。
(Y.T)

「ピカピカの一年生」(入学式編)

DV 被害に遭った外国籍のお母さんと子どもたちが入所してきたのは、3月に入ってからだった。上の子は、4月から1年生。小学校に入ることをととても楽しみにしていた。「入学式に

間に合うように引っ越す」との支援方針に基づき、準備は着々と進められた。何とか引っ越しの目途が立ち始めた3月20日頃、スタッフのひとりが「あとは入学式のお洋服だね」と言った。

子ども服は難しい。性別や年齢、その子の体格によって、「合う」か「合わない」かのどちらかだからだ。そんな風に案じていると、洋服倉庫を見に行ったスタッフの「あったよ～！これ、どう？」の声。

「あら～、素敵！」さっそく、子どもを呼んで試着してもらおう。何とピッタリ！勢いを得て「じゃあ、次はお靴を探してみようね」と靴箱からよそ行きの靴を引っ張り出す。これも何とかクリアー。「わー、可愛い！」とスタッフみんなに褒められ、ちょっとはにかむ子ども。全く、このいざという時のために役立とうとそれぞれの場所で待機してくれていた洋服や靴（もちろん心を込めてそれを送って下さった方へも）には感謝…のひとことである。

「さあ、次はお母さん」。欲を出したスタッフは、今度はお母さんの準備に乗り出す。スーツ、ブラウス、靴と一つ一つ揃え、足りなかったカバンやネックレスは、折よく開催されたバザーでお母さんが調達。何とか「ピカピカの1年生のお母さん」の準備も整った。

「まさか、こうなるとは思ってなかった。ありがとう」の言葉を残して引っ越ししたお母さんと子どもたち。スタッフは、皆この共同事業(?)に携われた喜びで一杯だった。

「ピカピカの1年生」は、その後喜んで学校に行っていると聞いている。
(H.S)

宿直から

入居者と食事を共にし、子どもたちと遊び、テレビを見ながら団欒する。宿直は、夜の時間を入居者と過ごします。シェルター内での入居者は、美味しいと食事を取り、真剣な様子で編物をし、入居者同士でテレビに盛り上がるなど、それぞれが思い思いに過ごしています。

何でもないように過ごしているように見える入居者ですが、会話からなど入居者の抱える不安や心配が伺えることがあります。家を出るときに別れた大切なペットの存在、自身の家族のこと、退所後の生活など、一人ひとりが様々な想いを抱え

ています。入居者がこうした想いを口にするとき、静かにそっと話を聞くことは宿直の大切な役割です。

安全を守ることも宿直の役割です。危険性の高い人や健康上の不安を抱えている人が入居しており、有事の際には対応をします。また、インフルエンザやノロウィルスなどの感染症の予防にも気を使います。

大きな役割と責任のある宿直の仕事ですが、子どもたちと遊ぶことや、入居者とのお話などは、宿直にとって楽しい時間になっています。誰もがHELPで夜の時間をのんびりと過ごしていくことができれば良いと思います。(田澤夢紡)



HELPの食卓から

HELPにお世話になって半年が過ぎて、ようやく通勤と仕事にも慣れてきました。

自宅から1時間半の電車通勤は初めてのことで、しばらくは通勤だけで疲れてしまいましたが、今は何とかという感じです。

調理も、最初は献立もなくして昼食と夕食、それぞれ5品目つくるとなると、前の日から相当考えてしまい気が重くなる始末でした。

しかし、昼食は皆さんと一緒に頂けるので、利用者の皆さんが「おいしいね」と言って喜んで食べて頂く姿を見て、それが励みになり、今度はこういう献立にしようという気概が湧いてくるようになりました。

また、利用者みなさんのその日の体調や好みに応じて献立を考えたり、宗教上の理由で食べることのできない食材も考慮しながらも美味しく召し上がって頂ける献立を工夫することもできるようになりました。

これも、一緒に働いているスタッフみなさんの優しい心遣い、利用者みなさんの励ましによるものだ感謝しております。

私がこれまでに身に付けてきたもので、社会的に大変有意義な活動をされているHELPに少しでもお役に立てればと思っており、また、それが喜びでもあります。

今後も、一層喜ばれる料理を提供できるよう努力してまいりますので、よろしく願いいたします。(N.T)

春雨の炒め物

春雨はかためにもどすのがポイントで、肉や野菜の旨味を吸い込んで、薄味でもおいしく食べられます。

材料(4人分)

ニンニク	1かけら	もやし	1袋
ショウガ	少々	ニラ	1束
豚ひき肉	100g	人参	3センチ
春雨	50g		

作り方

- ① ニンニク、ショウガはみじん切り。
- ② 人参、ニラは3cmの長さで千切り。
- ③ 春雨は、熱湯に1分付けて冷水にとり、食べやすい長さに切る。
- ④ フライパンにごま油小さじ2を入れて①とひき肉を炒め②ともやしを炒める。
- ⑤ これに、塩を小さじ1/2、胡椒少々を振り、③を入れてさらに炒め、仕上げに醤油小さじ1を入れて出来上がり。

お知らせ

♪ HELP の活動に関心のある方へ♪

HELP では、毎月第一金曜日の午後 1 時 30 分から活動説明会(資料代 500 円)を開いています。そこで皆さんと一緒に HELP の活動と、それを通して見える問題を考える時間を設けています。また、ボランティア希望の方はまずはこの活動説明会にご参加ください。参加ご希望の方は、お電話の上お越しください。(シェルター内はお見せしておりません。)

♪ ボランティア募集♪

- 1 調理、片付け、掃除などのお手伝い
- 2 手芸教室(裁縫、編み物など)
お得意な方、ぜひお力を貸して下さい!
- 3 子どもたちとあまごとや勉強・絵本読み聞かせなどをして下さる方!
- 4 植物の手入れ、草取りなど 月 1~2 回

♪ ありがとうございます

& お願いします♪

いつもさまざまな献品を頂き、スタッフ一同心よりお礼申し上げます。

現在、HELP では、次のものを必要としています。引き続きご協力をお願いいたします。

なお、週末は事務所が休みのため、月曜日から金曜日までの配達指定をお願いいたします。

送付先：〒169-0073 新宿区百人町 2-23-5
日本キリスト教婦人矯風会気付 HELP 事務局

《食料品》 調味料(砂糖・塩・醤油・サラダ油)、ジャム、ドレッシング、お菓子、お米(「お米券」も歓迎!)嗜好品(コーヒー・紅茶・ココア・緑茶・麦茶・ジュース) *賞味期限内の物をお願いいたします。

《日用品》 シャンプー、洗濯用粉洗剤、台所用

洗剤、紙おむつ、トイレットペーパー、ティッシュペーパー、化粧水(小瓶)、乳液(小瓶)、化粧品、おしり拭き *コンディショナーは間に合っています。

《衣料品》 大人及び子ども用 — パジャマ、スウェット上下、靴下、部屋ばき、ジャケット。子ども用 — 半袖シャツ、男の子用ズボン(4~10歳用)、新生児用下着、新生児用衣類。大人用 — パーカー、産褥ショーツ、前開きパジャマ。

*新品の物をいただければ幸いです。古着は在庫がたくさんありますので、現在はお願ひしていません。

《その他》 ベビーカー(新品)、サングラス、靴、運動靴、ノート、タオルケット、バスタオル(新品)、フェイスタオル(新品)、手芸用品(刺繍布、刺繍糸など)、目覚まし時計、糸糸、汚れのない本・CD(色々なジャンルのもの)。

♪ HELP にご支援を!♪

HELP は広く一般の方の寄付とボランティアの方々の活動によって支えられています。皆さまの暖かいご支援、ご協力をお願いいたします。

郵便振替口座

00110-5-188775

加入者名「女性の家 HELP」

または

00140-1-32469

加入者名「財団法人 日本キリスト教婦人矯風会」

編集後記

手前みそだが、HELP は“食事のおいしさ”を自慢に思っている。しかし、実を言うと朝食メニューは恐ろしく単調で、「長期滞在の入所者は我慢できないよね」と先日スタッフ間で話題になった。せめて、目先を変えるためにチーズをつけてはどうかとの提案に、事務所では議論白熱!(生活施設ならよくある光景?)。翌日、「昨日は、頭がチーズになっちゃった。チーズも大事だけど、私たちが目指している『目的』を忘れたくないよね」とあるスタッフがぼつり。今年度も心新たに困難な課題を抱えた女性たちの支援から離れず一年が過ぎていきますように。(H.S)

※ 女性の家 HELP とは ※

女性の家 HELP は、日本キリスト教婦人矯風会の創立 100 周年を機に、1986 年に設立されました。女性とその子どものための緊急避難センターとして、国籍・在留資格の有無を問わず、シェルター活動と電話相談活動を行っています。